

9 自分の国について話す



9 課では、魅力的に自分の国や文化について紹介をする方法について学びます。

例 1 友達とのおしゃべりで

1. 各コマについて

1 コマ目	日本人がメキシコ出身の留学生に、メキシコに行ってみたい旨を話す。
2 コマ目	マチュピチュはメキシコにあると思っている日本人が、マチュピチュに行きたいと言い、留学生は困惑して日本人の誤りを指摘する。
3 コマ目	慌てた日本人がピスコを飲みたいと言う。
4 コマ目	留学生はピスコもメキシコではなくペルーの酒であることを指摘し、日本ではメキシコのことがよく知られていないことにやや落胆する。

2. 話し合いのポイント

- ここでは、留学生の出身国／地域のことやその文化が日本人にあまり知られていないことがある点に気づいてもらうことがポイントです。そして、そのことが自分の出身地のことを日本人にさらに知ってもらう、正確に知ってもらうと考えるきっかけになればよいと思います。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- 留学生の出身国／地域について日本人は見識不足だという結論で話し合いが終わらないようにできるといいでしょう。もう一歩進んで、自分の出身国／地域について正確に知ってもらうために、留学生が個人でできることを話すといいと思います。（例：自己紹介するときに、必ず地図を使って出身地の位置を確かめながら話すなど。）
- 多国籍クラスの場合、お互いの出身地のことについて地図などを使いながら、話し合ってもいいと思います。

例2 地域の交流会で

1. 各コマについて

1コマ目	地域の交流会でペーター（男）が日本人と話している。日本人にドイツといえばソーセージと言われる。
2コマ目	別の日本人にもドイツといえばソーセージと言われる。
3コマ目	また別の日本人にもドイツといえばソーセージと言われ、閉口する。
4コマ目	ドイツにはソーセージ以外にも有名なものがあるが、日本人には「ドイツ＝ソーセージ」というイメージが固定化していることにペーターは落胆する。

2. 話し合いのポイント

- ここでは「ドイツ＝ソーセージ」の例のように、特定の国と物の結びつきに見られる、固定化されたイメージに気づくことがポイントです。そして、その他の自国のことも知ってもらいたいという気持ちになることを目指します。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- 学習者には、まず、マンガで描かれているような自分の出身国／地域を言うといつも言及される物やことを挙げてもらい、いつも同じことを言われてどう感じるかを述べて話し合いをするといいと思います。
- また、学習者が来日前や日本語を学習する前に日本や日本語に対して抱いていたイメージを挙げてもらい、現在と比べてどうかなどを話してもいいと思います。
- 例1同様、ここでも留学生の国について日本人は知識や見識が足りないという結論で話し合いが終わらないようにしましょう。一歩進んで、お決まりの固定化したイメージに言及されたときの対処法などを考えるといいと思います。（例：ブラジルといえばサッカーと言われたら、ブラジルにあるクラブチームの数を話す。カトリック教徒の数は世界一など、意外と知られていないブラジルのことを話す。）
- マイナスのイメージと結びつくものが挙げられることもあるので、話し合いの進行に注意を払っておくとよいでしょう。

例3 学校の文化祭で

1. 各コマについて

1コマ目	台湾のホンパオ（お年玉）について説明する留学生。ホンパオは食べ物だと考える日本人。
2コマ目	留学生が赤い袋と言ったことから、ホンパオを初売りの福袋と勘違いする日本人。
3コマ目	福袋の説明を始める日本人。何となくおかしいと気づく留学生。
4コマ目	日本人の誤解を訂正できずに閉口する留学生。

2. 話し合いのポイント

- ここでは、まず、日本人と話しているとき自分の言いたいことが誤解されたまま話が進んでしまい、その誤解の訂正ができないという学習者が経験しそうな接触場面の問題に学習者の意識を向けることが1つ目のポイントです。その後、その問題を何とかやり過ごしたり、解決したりする具体的な方法を考えることが2つ目のポイントです。
- 学習者は接触場面でのつまずきの原因を自分の日本語力不足に帰してしまう傾向があります。しかし、漫画のように実際の接触場面では、学習者の日本語力以外の原因が生じていることも多いものです。つまずきや違和感の原因を客観的に分析し、次に生かすことの重要性に気づいてもらうことを目指します。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- 具体的には、次のようなステップで話し合いを進めるといいと思います。

- ①学習者からマンガの台湾の留学生のような経験を引き出し、クラスで共有する。
- ②具体的に何が難しかったり問題だったのか（例：日本人の話すスピードが速すぎる、誤解を解くための表現や談話展開のさせ方を知らないなど）学習者に考えてもらう。
- ③どうしたら日本人の誤解を解けるか、アイデアを出していく。

上記の手順が最善というわけではありません。他にもいろいろと話し合いの方法はあると思いますので、学習者の特性を考慮しながら工夫してみてください。

- つまずきがあったときに、「もっと日本語を勉強しなければならない」「自分の日本語を上達させたい」などのように、具体性を欠いた指摘しかできないこともあるでしょう。その場合、振り返りの方法として、教師の側から、「日本人の話を聞き取るのが難しかったのですか」「聞き取りが上手になるために、どうしたらいいと思いますか」などと問いかけることも大切です。
- また、「今」の自分の日本語力でできること（例：「すみません。そういう意味じゃないんですが……」などと言って、相手の誤解を訂正する）についてのアイデアを出してもらうといいでしょう。